

保護者各位



## 溶連菌感染症の 発生について

R1. 7. 17  
舞戸保育所

昨日、つばき組で溶連菌感染症と診断された子がいましたのでお知らせします。

子どもたちやご家族の体調には十分注意してください。

(その他のお休みの状況: つくし組1名(風邪)、もも組1名(風邪))

現在、溶連菌感染症については、警報・注意報は発令されて  
いません。(青森県感染症情報「週報」の最新版をご覧ください)→



### 溶連菌感染症(ようれんきんかんせんしょう)

- 潜伏期間…2～7日
- 感染経路…飛沫感染
- 主な症状…溶連菌という細菌がのどに感染し、のどの痛み、38～39℃の高熱、嘔吐、腹痛、頭痛を起こすことがあります。体や手足に発疹などが出はじめ、舌はイチゴのようにプツプツになります。手洗いやうがいをしっかりさせて予防に努めましょう。
- 登園基準…適切な抗生剤治療が行われていれば、24時間以内に他人への感染を防げる程度に病原菌を抑制できます。感染の危険がなくなったことを医師に確認してから登園してください。

※溶連菌感染症は家族にもうつります。家庭内でうつる確率は約20%です。症状があれば必ず医師の診断を受けてください。症状がなくなったからといって薬をやめると再発します。

リウマチ熱や腎炎を起こすこともあるので、医師の指示に従いましょう。

※もしかかってしまったら、のどが痛い場合は熱いものや辛いもの、酸っぱいものは避けましょう。発疹が水ぶくれになっていなくて、熱や咳がなければお風呂に入ってもよいでしょう。かゆみを伴う場合もあるので、爪を短く切っておきましょう。室内の温度は汗をかかない程度にしましょう。医師の診断に従いましょう。